



低成長時代からの脱出は 新素材から

監査役 木 本 洋 一 郎

新規商品への展開努力を欠き、業界に於けるシェア、品質、コスト競争力の差、不利な立地条件、需要の減退に加え、資源国からの輸出攻勢が致命傷となって、遂に人員整理に追い込まれた企業の惨めさを目の前にして、技術開発力、新製品の展開力の必要性を痛感している昨今である。

先進国経済圏に於て、今世紀前半の高度成長を支えた、リーディング・インダストリーとしての基礎素材産業は、既存素材による製品が既に需要を充足し、所謂、成熟化社会に到達したのでこれ以上の伸びが期待し難くなっていた矢先、エネルギー価格急騰の追い打ちに会い、収益力にも問題を生じている。

しかし、市場は既存製品に充足感を持っていても、決して満足感を持っている訳ではない。既存製品に比べ品質、性能、機能に優れ、更に満足感を与える製品が開発されれば、新規需要は再び際限なく拡大し、低成長時代を抜け出す可能性を持っている。

此の新規需要創造の原動力になっているのが、最近急速に研究開発が進んでいる新素材である。即ち、材料革新の担い手である先端技術によって製造されている高分子、セラミック、新金属、複合材である。

此等の新素材は、エレクトロニクス、省エネルギー、新エネルギー、医薬、医療等の分野の産業によって、更に高付加価値製品に加工され、既存品にない満足感を与える商品となって需要を拡大している。社会の新規商品に対する欲望は、此等の商品に刺激され一層増幅され、相乗効果を生んでいる。中でもI.C., L.S.I.関連産業は旺盛な需要を喚起し、急成長を遂げつつあることは衆知の通りである。

企業の成長が、新規素材の開発力、展開力にかかっていることは言うまでもない。幸い当社の研究開発活動が、先端技術分野についても軌道に乗りつつあることは、大変喜ばしいことである。今後一層、基礎知識を深め、最新の膨大な新技術情報を消化し、発達した評価解析器機を駆使し、高度のシステム化により、秒進分歩と言われる技術革新の先駆者を目差して頑張りたい。大いに期待している。

その為に、重点的に経営資源を投入することを惜しまない。一方、既存部門の競争力強化のため、製造部門に先端技術を積極的に導入し、無人工場化を進めるとともに、理論原単位を追求し、又、バイオリアクター技術等による製法転換にも注力されることを期待している。